



地域とともに歩み、
地域の未来を拓く学校

湖南省立石部小学校
校報第141号

令和3年(2021年)3月15日
文責：校長 法山 由紀子

コロナ禍のなか新しいスタイルで…「6年生ありがとう週間」

昨年の2月末に行われた「6年生を送る会」は、新型コロナウイルスの感染が国内でも拡がり始めた時期。急きょ保護者の来校もお断りして、6年生と5年生と発表する学年のみが体育館に入ったの実施となりました。

あれから一年。あのとき、最高の「6年生を送る会」を自分たちの手で創りあげようと取り組んだ5年生は6年生となり、卒業間近です。



そんな6年生を送るために、今年度は、5年生を中心に新しい試みに全校で取り組みました。

名付けて「6年生ありがとう週間」。

週間をとおして、「おめでとう」「ありがとう」「がんばってください」6年生にこれらのメッセージが届くように、プレゼント色紙を贈ったり、ありがとう放送で作文を読んだりとさまざまな取組を行いました。

特に、2月26日(金)2、3時間目に行われた「6年生に伝えタイム」では、各学年ごとに体育館に入り、6年生との貴重な時間を過ごしました。



先生クイズとかわいいジェスチャークイズで大好きな6年生と笑顔で過ごした1年生。本気の勝負！ゲームで思いっきり汗をかき、その後はスライドショーで自分たちの思いを伝えた2年生。ボールを譲ったり、譲ってもらったり。あこがれの6年生と楽しくドッジボールをした3年生。4年生は、全員で大クイズ大会。正解したご褒美となわとびダンス隊も登場して大いに盛りあげてくれました。そして、この会を企画、運営していくなかで、学校の新たなリーダーとして意識を高めた5年生。



その後昼休みに行われた「お別れわくわくタイム(たてわり遊び)」でも、初めての司会進行を任せ、がんばってくれたおかげで、各教室は笑顔に包まれていました。

後輩たちのメッセージをしっかり受け取めた6年生は、翌週から「〇年生に伝えタイム」を計画し、各学年とふれあう時間をもつことで、お返し「ありがとう」の気持ちを伝えました。



さらに、私たち教職員を「ティーチャーHAPPYサンキュープロジェクト」に招待してくれ、お礼の思いを込めて大いに楽しませてくれました。



この一年間、「コロナのピンチをチャンスに！」を合い言葉に、さまざまな活動のあり方を根本から見直し、できることを精一杯やってきたその集大成がここにある！という気持ちになりました。いしべっ子たちのお互いを思いあう気持ちが深くなった・・・そんな取組の報告でした。

【湖南省の小さな詩人たち事業 入選作の紹介(前回掲載できなかった作品)】

【詩部門】佳作
(小学校四～六年生の部)

集まる所にいる

たくさんの石の仲間が

有名な神社のすみっこの

ぼくは人がいっぱい来る

そして今

ふんばってきた

それでもずっと

けられても

ふみつけられても

ティラノサウルスだって

もちろん

たくさん見てきた

強い生き物

おかしな生き物

私はうまれた

私はいま

恐竜の時代よりずっと前

とつてもすごく古い時代

私は石

石部小学校六年

谷 俊輔

私は石